

学習習慣のついていない生徒をいかに机に向かわせるか。これは多くの高校の教師が頭を悩ませている問題の一つではないだろうか。特に最近の生徒に対しては、試験に出題される分野のみを要領よくやり、本当の意味での実力をつけようという意欲が乏しいという声も聞かれる。北海道の北見北斗高校の亀谷千代仁先生も次のように語る。

「中学から高校に進学したら毎日4、5時間は家庭で勉強する習慣を生徒に身につけさせたいと私は思っています。ところがうちの高校の生徒の場合、最初のうちは一生懸命勉強しても、ちょっと力がつくとすぐに気が緩んでしまってみたいなんです。だからある一定の成績は取れても、それ以上は伸びていきません。競争心があまりないんですね。生徒を勉強に取り組ませるためには、教師の側でさまざまなサポートをしていくことが必要です。」

数多くの個人面談を設定

学習意欲を高めるために、生徒1人ひとりに将来に対する目標設定をさせ、その目標達成に向かっている姿勢を作っていくという試みを行っている高校は少なくない。北見北斗高校

も、宿泊研修やHRなどを利用して、就きたい職業や生きがいについて生徒自ら考える機会を設けている。また、大学・学部・学科研究についても1年生の段階から行っている。一方で同校が重視しているのが、生徒の状況

北海道北見北斗高校

生徒の基礎学力を 把握するため 個人面談を 効果的に実施

「形式ばった面談より、もしかしたら掃除の時間の方が、生徒の本音を聞き出すチャンスかもしれませんね。雑談の合間に『最近英語が伸び悩んでいるみたいだけど、勉強方法で苦しんでいるの?』とか、なにげなく聞いてみるんです。そして生徒に的確なアドバイスを与え、落ち込まないように励ましていく。ただしその際に重要なのが、生徒の状況をちゃんと把握しておくことですね。その生徒は、一生懸命勉強しているのになかなか成績が伸びないのか、それともただ単に勉強時間が足りないだけなのか。また弱分野はどこなのかなどをあらかじめわかっていないと、効果的なアドバイスはできません。」

を的確に把握でき、アドバイスができる個人面談の場である。どの時期に何度行っていくかはクラス担任の教師の判断によって変わってくるが、だいたい各学期に1〜2回は面談の場を設けている。新年度や夏休み、冬休みなどの長期休暇前に実施する教師が多いという。また掃除の時間など、教師と生徒が気楽にコミュニケーションをとれる場面を使って生徒に話しかける

基礎学力養成が重要

北見北斗高校では、面談を効果的かつ効率的に行っていくために「スタディーサポート」を活用しているという。実施しているのは、1年次2回、2年次2回の計4回、3年生を担任する内山幹敏先生は次のように説明する。

つけて見るようにしています。「スタディーサポート」はバランスのとれた問題構成になっていますので、各教科の分野ごとの学力が把握できるんです。生徒の中には、基礎学力はなくても模試では高い点数を取るといふ子がいるんですが、長期的に見れば基礎学力のある生徒の方が確実に伸びていく。低学年時には、各科目を学ぶうえでベースになる知識を身につけていくことが大事ですね(富田賢二先生)

書きの学級通信を年間で70回以上も発行。取り上げる内容は、日々の授業やテスト、学校行事、進路のことなどさまざまだが、その文章は「入学当初の緊張感を持ち、1度縮んでしまった希望や夢を再度膨張させる!! でっかいもつともつとでっかい夢を!」というふうには、励ましと情熱にあふれたメッセージが盛り込まれたものとなっている。

『スタディーサポート』の結果に目を通し、生徒と話しておく必要がある部分をチェックしておくんです。また『スタディーサポート』では、生徒1人ひとりの成績と学習状況を照らし合わせて分析することができるので、その科目・分野が苦手な理由が勉強方法にあるのか、それとも学習時間にあるのかといった分析もスムーズに行うことができますね。」

2年間で4回実施する「スタディーサポート」の中で特に重視しているのが、高校入学時に行うものについてだという。「スタディーサポート」が、生徒の基礎学力を測るのに適したテストであることに目をつけてのことだ。

「中学卒業段階で、国語、数学、英語に関する基礎学力がどこまで身についているか。つまづきそうな分野はどっぴったるところかを、気を



亀谷千代仁
北海道生まれ、化学担当。
佐呂間高校を経て昭和61年度に北見北斗高校に赴任。その後同校の定時制課程でも3年間教鞭を執る。現在1年生を担当。



内山幹敏
北海道生まれ、日本史担当。
紋別南高校を経て平成4年度より同校に勤務。昨年度は1年生、今年度は持ち切りで3年生を担当。



富田賢二
北海道生まれ、英語担当。
女満別高校を経て平成6年度より同校に勤務。内山先生と同様今年度は3年生を担当。

クラスの団結力を高める

生徒の意欲を高めつつ効果的な学習に取り組ませるためには、個人面談などを効果的に活用することも重要だが、一方で生徒全員がやる気になるようなクラス作りを手がけていくこともポイントになる。そのことに果敢にチャレンジしているのが、冒頭に登場した亀谷千代仁先生だ。亀谷先生はクラス担任を持ったときには手

「学級通信には、『スタディーサポート』の結果も積極的に掲載しています。『スタディーサポート』では、個人データだけでなく、クラス全員の平均点や平均学習時間などが出てきますからね。ほかのクラスの生徒と競い合うように、生徒は勉強に取り組むようになりませう。」

「クラスメイトと同じように一生懸命勉強しても成績が伸びないという生徒には、やはり面談が効果を発揮します。私は面談の際には『スタディーサポート』のデータといっしょに、生徒に勉強用のノートを持ってこさせています。ノートの作り方を見れば、その生徒の勉強法もだいたいわかりますから。そしてアドバイスを与えていく。今の生徒を前向きに学習に取り組ませるには、とにかくきめ細かく指導していくことが大事だと思います。」